



一級建築士事務所

株式会社 匠常陸

一乗山無二亦寺の山門事例



一乗山無二亦寺の山門

令和 2 年 8 月、茨城県ひたちなか市にあります一乗山無二亦寺の山門新築工事が完成致しました。

私が初めて無亦寺の山門をくぐったのは 25 歳の時でした。当時、修行していた工務店の仕事で本殿や客殿の改修工事に入らせていただきました。その間、ご住職は仕事終わりのちょっとした時間での何気ない会話の中で、仏教の教えを例えに、気持ちの整え方、前に進むための考え方をご住職の実体験も交えて、とても面白くお話していただいたことを懐かしく思います。良い時期にご住職と出会い、とても良い言葉を教えていただいたと感謝しております。

その後しばらくして私が京都の名門工務店に移り、更なる高みを目指すことをお伝えした時には、ご住職はとても喜んでくださいました。その際、私が「山門を建て替える時は是非とも私にやらせて下さい。急いで京都から戻り、必ず良い仕事をしますから。」と生意気な発言をしてから、はや 10 年。このようなご縁を頂けたことにつきまして、ご住職、並びに檀家の皆様には心より感謝した次第でございます。





飾り金物は国宝や重要文化財の修復などもこなす京都の飾り金物店に
こしらえて頂きました。細かい打ち合わせを行い、傷をつけずに綺麗
に正確に取付け易く、傷つけることなく綺麗に外して交換できるよ
うな設計にしました。



木鼻と虹梁の彫刻は、以前出入りしていたお寺の彫刻を参考に彫り易く
デザインしました。特に、木鼻の真ん中を大きく繰り抜く形は、軽やかで、
美しく、数寄屋建築も手掛ける私好みの形であり、いつか自分でもやって
みたいと思っていた形でしたので、設計にいれさせていただきました。



四脚門において虹梁に虹梁を差す設計は手間がかかりますのであまり見なくなりましたが、今回はあえて設計させていただきました。

男うつ梁と女うつ梁の間に斗と肘木を挟む納まりは文化財などの古い山門にたまに見られます。仕口などが見た目より複雑になってしまうのですが、私の好きな納まりでしたので設計にいれさせていただきました。





輪違いの組棟にしますと瓦棟が高くなり、それに伴い鬼瓦も大きくなります。山門の屋根の大きさに対して鬼瓦が大きくなり過ぎないように全体のバランスを考慮し、今回は瓦屋さんとの打ち合わせにより、組棟の部材（輪違い、菊丸）を極力小さく焼いていただき、その寸法に合わせて鬼瓦（経ノ巻）をこしらえていただきました。



弊社の職人は皆それぞれが 300 点以上の手道具を揃え
仕事に備えております



ご質問などお気軽にお問合せください

心を込めて丁寧に仕事させていただきます

一級建築士事務所

株式会社 工匠常陸

TEL. 029-(869)8915

〒300-0069

茨城県土浦市東並木町 3448 番地

FAX | 029-(869)8916

MAIL | mn@kousyou-hitachi.com

WEB | www.kousyou-hitachi.com

茨城県知事許可 (般一 31) 第 36688 号